

農園便り 6月号 (125号) 2023/6/1

文責 筒口 典康



5/09 20 数頭程のの小型のホルスタイン

小泉牧場厩舎入り口

東京都の区部に残る最後の牧場、「小泉牧場」。西武池袋線「大泉学園」の北に流れる白子川。そこに「小泉牧場」はある。4月12日に訪ねた時に、近所の方に尋ねましたところ、『牧場は、マンションになって廃業したようですよ』と。で、…、無くなったと報告いたしました。どうも、腑に落ちないのでグーグルで検索しますと、紹介画像が…、ムムムなのであります。

勝手に大きな牧場と思い込み、探せなかった。「大泉農協」こぐれの職員の方に聞いたように探していれば良かったのに。実は、今日も(5/9)迷子になりまして…、通りがかった方に聞いた。不安に思いながら探しておりますと、「小泉牧場」に着く。牛たちがおりました。

体毛がツヤツヤ。とても手入れの行き届いた牛たちがいる。人懐こい牛。顔を寄せてくる。幸せな牛達。小牛が3頭。数日前に生まれたと思われる牛も別棟にいました。牛たちの様子を見れば、牧場主のお人柄が解ります。牧場主に、色々お聞きしました。『うちでは、牛糞等の産廃はお分けしていないヨ』。残念。敷き藁、牛糞をいただく事は、諦めるよりしょうがない。

一つ分かったことは、牛の飼料として「オカラ」が、軽トラ一杯運び込まれておりました。そこで、どこの豆腐工場から仕入れているかを調べてみようと思う。豆腐工場が解れば、菜園に使う「ボカシ堆肥」の基本材料が確保できそうだ。「オカラ」と「糠」を探している。「糠」は、精米所。

『農園便りに載せると言うけれど、牧場を余り世間様に知られたくないんだヨ』。『畜産公害の問題もあるし……』。『ともかく来訪者が多くなるので困りますヨ』。近所の住民が「マンションをお建てになって廃業した」と、いい加減な事を言う訳も解る。住宅地で牧場を経営していくことも中々難しくなっているのでしょう。

「小泉牧場」の牛は、ホルスタイン種の二回りほど小さめの牛で、体つきと斑紋が似ている。「小泉牧場」は、確かにある。

訪問者が、人懐こい牛に触る。これも迷惑と言うものであろう。畜舎の入り口の置いてある消毒用アルコールで手をすすぐ……。可愛い牛たちがいる。幸せな牛たちがいる。畜舎特有の臭いが全くしなかった。

以前、白子川の少し下流に(八坂近く)ある「内田牧場」。他にも西武新宿線上石神井駅から北方、富士街道近くにも牧場があった。大きなホルスタイン種が飼われていた。また、かなり昔、世田谷区・下北沢の松沢病院近くにも牧場があった。

5月19日(金) トマト、ナス、キュウリ、ピーマンが 元気に育つ。

トマト トマト大玉の2本、ミニ2本、中玉2本。去年3月、通販の「花俱樂部」に出ていた「ステーキハウス」(超大玉)が、販売中止。問い合わせると、『お客様の方で検索してお探してください』とくる。全く無責任な話です。

トマトは、幅広畝の水分少な目の列に植える。籾殻燻炭層の構造。1cm程の炭層で根を増やす……。初めての試みで、どうなることかと楽しんでいる。

大玉種の「麗果」が、やや肥満気味である。葉がカールし始めている。追肥は、止めておこう。こまめに脇芽を取る。支柱に結ぶ。1本仕立てにするので、仕立てやすいのである。脇芽の発生が激しい。元気、元気。



5/19 トマト列

5/22 茄子に竹枝葉でマルチする。

ナス 第1果を切り落とす。細かな芽は全て欠き落とす。上部の強い芽3本を伸ばす。3株植えていますから、支柱9本、必要。ナス株の列の南側に若い竹の枝葉を置く。竹枝葉でマルチするのであります。既に竹チップで覆ってあります。梅雨が近いので、マルチ掛けは必要です。

自作の道具で穴をあけて、蟹殻砕粉と「マルタ玉肥」を落とす(長浜商店0280-56-1100)。覆土する。梅雨の走りのような雨が降る。今の所(5/22)病害の発生は、全く出ていない。無農薬での栽培を進めている。品種は、飛天長、サントリー長ナス、白茄子。

キュウリ 苗を3本買いまして植える。脇に種子を蒔く。苗の第一花は、切り取る。5葉までの脇芽を全て取り除く。様子を見て追肥する。追肥用の深溝に有機物を入れて、「糠」「菌」を振る。その上に仮通路の「板」を置く。キュウリの根は、踏まれると極端に弱る。板で、踏み圧から守るのである。

ウリハムシが飛来する。困ったもんだ。捕殺。タンジーマジイ、薄荷、クロレタリヤ、ニラ等の臭いの強い草たちの葉を撒く。小さめにカットして撒く。古米を撒く。鳥をよぶ。これで、ウリハムシを追っ払ってもらいます。株の下からの黄化葉は、切り取る。脇に種子を蒔く。

腐葉土を置く。載せるだけ。ラクラク・オクオクなのであります。蔓を結束誘導する。キュウリは「風」に弱いので…。品種は、夏すずみ(接ぎ木苗)。畝間に蜘蛛が走り回る。



5/19 キュウリ3本植える。

5/17 サトイモ列 竹チップマルチ

ナス・サトイモ・ショウガ・ミョウガ・キュウリ… 水を欲しがると野菜たちを中央作業路の北側の広畝の半分に植える。サトイモと茄子とキュウリは多肥を好む。水を好む。畝を多肥列、少な目の列に使い分ける。境目に深い追肥溝を作る。

追肥溝 作物の残滓、刈草、「糠」「オカラ」「蟹殻」「醗酵菌」などを入れて、板を置く。野菜たちが肥料不足になった時に、自ら根を伸ばして、養分を取りに行かせるようにする。後は、みずやり。「大きくなーれ、大きくなーれ」「美味しくなーれ、美味しくなーれ」と水をやる。地表が乾いたら、溜水が出来るほどたくさんあげる。中央作業路を20cmぐらい下げて、排水をしやすいように造っておく。畝列は有機物マルチで覆う。

インゲン インゲンについても苗を買って植えた脇に「種子」を蒔く方式で作ります。鉢苗移植で育てたものが調子を落とすと、種子から生えたものが最盛期なるように。霜の降りる頃まで収穫できるのであります。

耕作2年目に入ると「土」作りが出来てくるので、良く出来る。でも、使用期間2年ですから返却しなければならぬ。惜しい話でございます。

畝間に蜘蛛が走り回る。

練馬区の区民農園も、せめて杉並区のように 3 年の使用期間があれば良いのですがネ……。ドイツのクライネルガルデンのような長期間使用が出来るのが理想でございますが。せめて 5 年であれば、有機栽培をなさる方が増えてくるであります。慣行農法(化成肥+農薬)で、「土」を痛めることは止めたいものである。有機栽培で、「元気野菜」「健康野菜」を作りたい。

サヤエンドウ キヌサヤ(白)(赤)、スナップエンドウ。白花種は、元気そのもので、良く花を咲かせて実る。沢山できました。収穫で忙しかった。赤花種に比べてやや美味しくない。とにかく良くできるのであります。

暖かい地方では、12 月はじめから収穫できますが、都内ではまだ無理なようで、4 月に入ってから苗を植えました。1 月、2 月、ホトケノザ、オオバコの地際にうどん粉病がびっしりと着いていた。4 月。放置されていた「カキナ」にもうどん粉病。今年もサヤエンドウの「うどん粉病」の発生がすさまじい。止むなく片付ける。(5/15) 赤花種(農協)は、大層美味しく、実の形が良いので、来年用に採種しています。ヒヨドリが襲来するので競争だ。ヒヨが、食しているかは見ていない……。が。

イチゴ かなり長い間いただくことが出来ました。ランナーに 1・2・3・4……。と芽が付く。来年の苗づくり。確かではないのですが、2・3 番目の「芽」が良いと聞きます。やってみます。松村さんにいただいたイチゴの苗はすばらしい出来栄でした。今の所全く病気は発生していません。心配していたうどん粉病も。虫害も出ていません。美味しくいただきました。松村さん「ごちそうさま」。耐病・虫性品種、確認できました。

地球温暖化で、東京の気温がとても暖かくなっています。 昭和 36 年大島泉津村の「町立第 2 中学校」に着任。真冬でも半袖シャツ。当時、大島は、年に一度雪が降る程度の暖かさ。ため置いた水が氷るのも、4・5 度でした。春になると、道沿いはまだ舗装されていなかったのが湿度が高く、落下した椿の花で、どこもかしこもピンク色に染まり見事でした。夢のように綺麗であった。今、東京はその暖かさ。温州ミカン、キンカン、甘夏みかん、ダイダイ蜜柑、柚子にスダチ、温州ミカンから改良された「スプリングアーリー」。植えてみよう。チャンス到来。蒔かぬ種は生えぬ。植えない果実は実らない。鉢で作って、テラスに置くのも良い。

繁り過ぎたヤマモモ 2 階の屋根を超えてしまいました。太枝を切り払い地表が明るくなった。残した枝に花が。次々と落果。今年はいただけません。ヤマモモ酒、ヤマモモジャム。完熟した美味しい果実。2 年待ちであります。小庭での栽培は無理であります。おそらく、数年後には伐採することになるのでしょう。もう味わうことはできない。

太枝を切り払う費用、1 本 ¥44,000 かかりました。ま〜ケガをするよりいいか。それにしても、手痛い出費でありました。

二中、在任中の 4 年間、「学校農園」で、野菜作りに励みました。単肥施用の時代でしたから、色々と大変でした。苦勞しました。

T、